

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は緩やかに悪化している。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まりつつある。
- ・ 個人消費は緩やかに減少している。
- ・ 雇用情勢は急速に悪化しつつある。

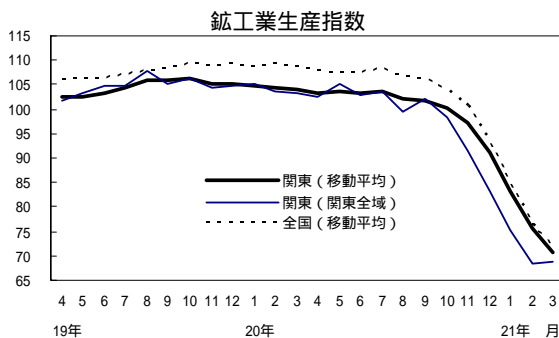
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 21 年 2 月)	今回 (平成 21 年 5 月)	
景況判断	急速に悪化	緩やかに悪化	
鉱工業生産	極めて大幅に減少	下げ止まりつつある	
住宅建設	大幅に増加	大幅に減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は下げ止まりつつある。(関東全域)

輸送機械は、普通乗用車及び小型乗用車を中心に、大幅に減少しているものの、3月は在庫調整の進展もあり上昇している。化学は、ポリエチレン及び合成ゴムを中心に、減少している。一般機械は、半導体製造装置やフラットパネル・ディスプレイ製造装置を中心に減少しているものの、3月は上昇している。電気機械は、開閉制御装置やセパレート型エアコンを中心に減少しているものの、3月は医用X線装置や電力変換装置を中心に上昇している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

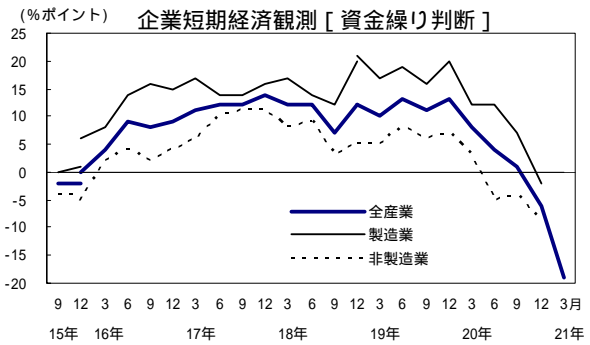
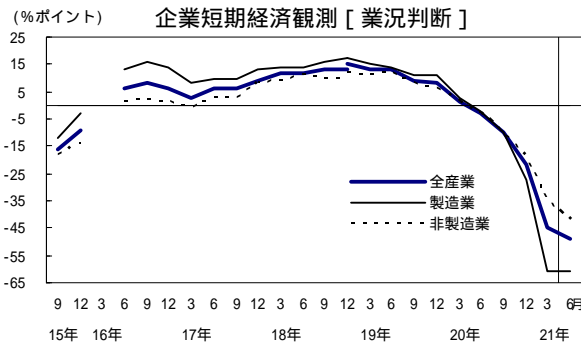
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
輸送機械	15.2	18.6	42.4	36.6	37.5
化学	13.4	4.6			
一般機械	13.2	10.3	33.7	33.4	7.3
電気機械	7.8	5.5	19.3	16.7	19.8
食品・たばこ	7.1	1.2			
鉱工業	100.0	10.6	22.2	20.6	11.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1~3月期は速報値。化学、食品・たばこは、速報値では公表されていない。

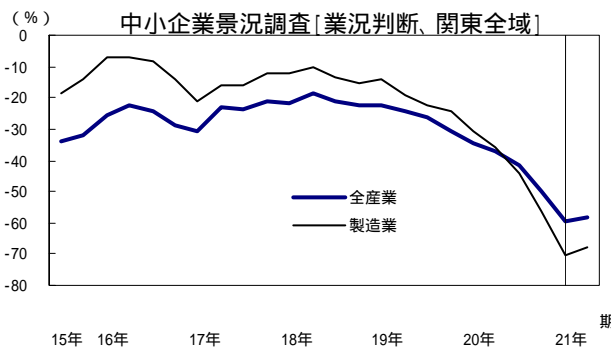
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年6月は予測。
旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。
18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。
旧基準は関東全域、新基準は神奈川県。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

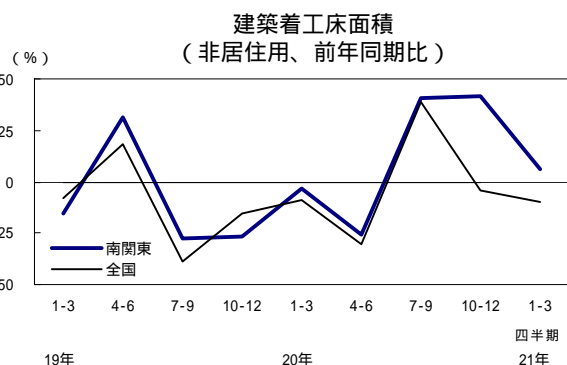
「企業間格差があり、環境関係の製品を取扱う企業などでは好調な所も見られる(経営コンサルタント)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績見込み	21年度計画
全産業	7.4(2.2)	12.4
製造業	8.9(1.1)	11.7
非製造業	4.3(8.6)	13.9

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。
調査対象は神奈川県。



2. 需要の動向

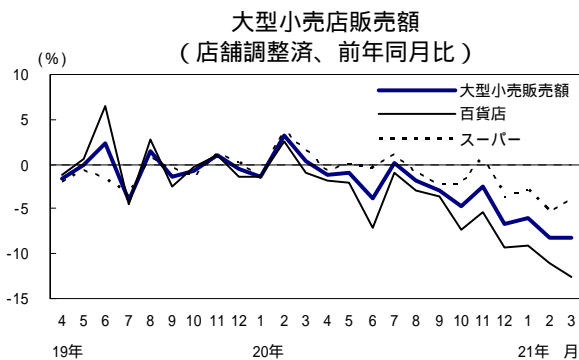
(1) 個人消費は緩やかに減少している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、クリアランスセールでは衣料品に若干の動きが見られたが、スーツやコート等は低調で、前年を下回った。2月は、バレンタイン商戦では高額品は苦戦し、飲食料
品全体では低調で、春物プロパー品の動きが鈍く衣料品も振るわなかったことから、前年を
下回った。3月は、飲食料品は物産展等の効果がありつつも、全体では低調で、衣料品も天
候不順の影響でスプリングコートを中心に不調だったことから、前年を下回った。なお、日
本百貨店協会によると、東京地区の4月の売上高は前年同月比11.9%減となっている。
スーパーは、価格強化策や生活催事の提案により、飲食料品は堅調であったが、衣料品、家
庭用品が振るわず、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「文化催事や外国展等、集客イベントの影響で来客数は前年を上回っていたが、客単価は低
下、結果として売上は減少している。イベントで盛り上がった店内にあっても、価値を見極
め、価値以上の価格には手を出さない賢い消費者が増えている(百貨店)」など、「変わらない
い」とする回答が多くみられた。

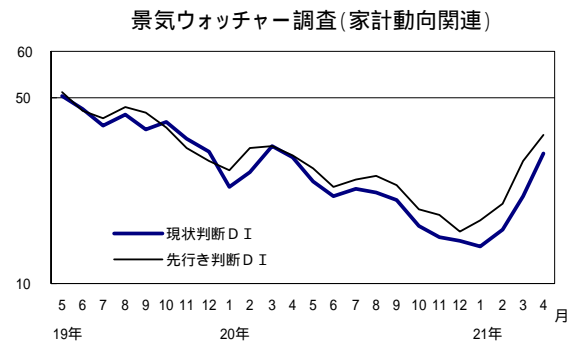
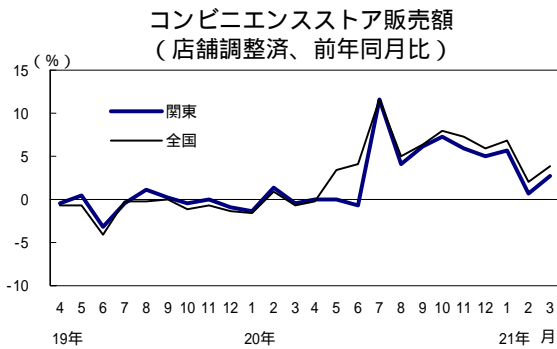


(前年同月比、%)

	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月
大型小売店	2.1	1.5	4.8	7.4
百貨店	3.8	2.3	7.5	10.9
スーパー	0.4	0.7	2.0	4.1
コンビニ	0.2	7.2	6.0	3.0
景気ウォッチャー	32.7	29.4	20.5	22.9

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。21年1-3月期は速報値。コンビニは関東全域。

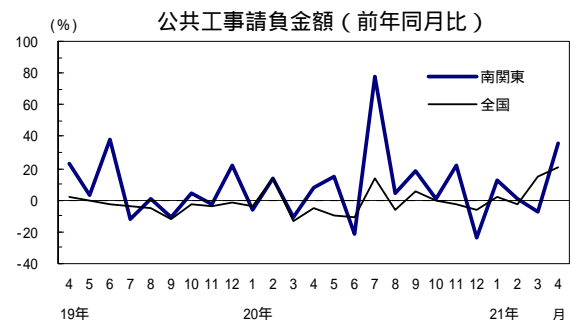
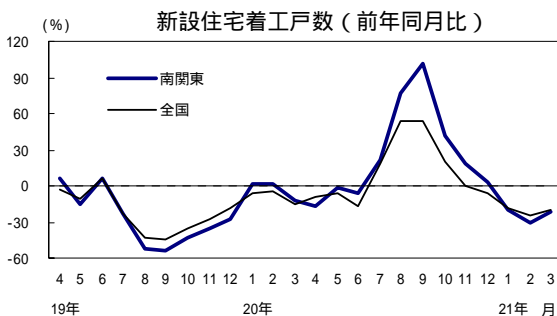
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

分譲が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を上回っている。

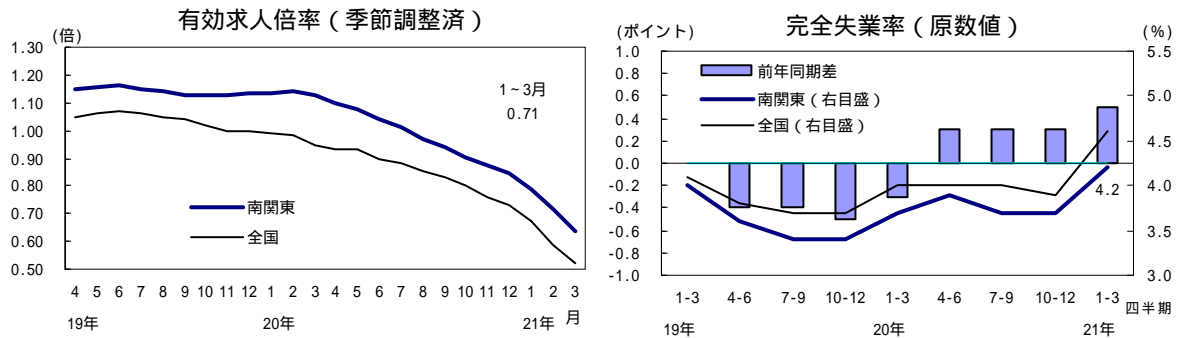


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は急速に悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

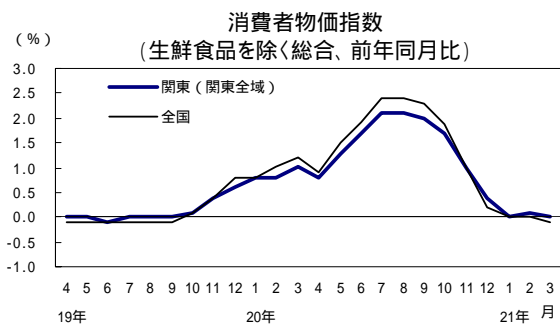
「看護、介護、保育など有資格職の求人は堅調だが、一般職は正規雇用の募集は少なく、臨時、特別、パート、アルバイトが多くなっている（求人情報誌製作会社）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、「求人数が激減し、求職者は増える一方である（職業安定所）」など、「悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月	21年4月
倒産件数	1,113	1,211	1,212	1,321	445
(前年比)	13.3	19.3	16.1	28.1	26.8
負債総額	8,129	56,348	12,313	18,943	1,795
(前年比)	62.6	524.5	145.4	223.3	56.5



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・住宅に関しては価格が非常に安くなったこともあり、多少動き出している。しかし、価格が極めて低く、赤字で販売している状態が続いている。また、資金繰りが極めて厳しく、銀行の融資が以前のように受けられない（住宅販売会社）。

<先行き>

・エコポイント制度が始まるだろうと思われるので、今まで買い控えをしていた客に多少商品を買ってもらえる（一般小売店〔家電〕）。

